

令和4年度 大在圏地域連携検討会 報告書

1 日時 令和4年9月14日（水）18:30～20:00

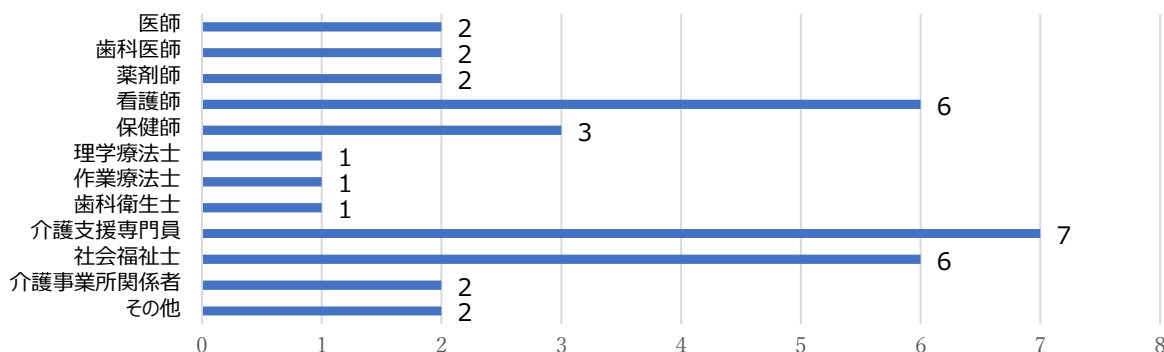
2 参加方法 Zoom ミーティング

3 内容 取り組み紹介：大在圏地域包括支援センター

グループワーク：「認知症予防について私たちにできること

～地域住民の理解を得るために～

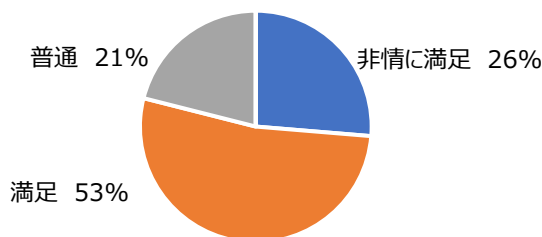
4 参加者数（35名）の内訳



5 アンケート集計（アンケート回答数 名）

問 1. 本日の地域連携検討会参加の満足度はいかがでしたか？

1	非常に満足	5	26%
2	満足	10	53%
3	普通	4	21%
4	不満	0	0%
5	非常に不満	0	0%
0	無回答	0	0%
	合計	19	100%



今回の検討会で参考になったことや、新たな気づき等あればご記入ください。

【医師】

・認知症は発症前の対応が重要である。

【歯科医師】

・認知症と診断されるまでのご苦労が分かりました。歯科からも早期に発見、対応できる方法を考えたいと思います。

【看護師】

・各役割をもってみんな頑張っていると感じた。また歯医者には定期的に行こうと思いました。

・認知症に関する情報の普及啓発について多職種が取り組める活動を知る良い機会となった。また、認知症予防のために歯を大切にすることも知れてよかった。

・意見がなかなか出なかった。

【薬剤師】

・本人（高齢者）だけでなく家族等周りの人に対して普及していくことが、今後の認知症普及に必要なのだと思いました。

・認知症の啓発の対象を高齢者だけでなく学生さんや子供に、というのは意外でしたが、大事な事だと思いました。

【介護支援専門員】

・大在にはオレンジカフェがない。

・認知症の方のご家族へのアプローチの方法…メディア、YouTube、チラシ、ポスターなどを利用する方法。

・認知症の方を地域で支える視点を医療や介護の従事者で共有できた。

・なかなか認知症予防に関する取り組みはどこの職種も進んでいないのかなと感じた

・コロナ禍で地域の集まりなどが困難な為、普及啓発活動に今までと異なるアプローチが必要だと感じました。

・認知症の方が地域で住み続けるためには若い世代への広報も重要であることに気づきました

【介護事業所関係者】

・認知症に関する地域の取り組みの必要性や課題を知ることができ、地域における私たちの役割を再認識できた。

【保健師】

・日頃の関係者の方の取り組みを知ることができた。自分の活動と結び付けて考え、何ができるのかを改めて考えるきっかけになりました。

【無回答】

・普及啓発についての意見により、YouTube や啓蒙活動（スライドショーやチラシの配布など）をし、認知症を知っていただくことで、ご本人やご家族など含め地域での認知症の方の支援が浸透するアイデアが参考になった。

問 2. 取り組み紹介について（質問や感想などお書きください）

【医師】

- ・しっかり意見が出ました。

【看護師】

- ・若い年代、中学生や高校生への情報普及啓発は、自分の中になかったので、とても参考になった。
- ・活動されていることは知っていましたが、コロナ感染流行もあり参加者が少なめであったことに驚きました。私たちが出来る事は情報発信とと思っていますので是非協力させてください

【薬剤師】

- ・YouTube や動画などを活用するという意見が有ったので、若い世代には必要なのかな、と思いました。徘徊訓練というのは初めてきいたので、どういったものか気になりました。

【介護支援専門員】

- ・認知サポを市民向けに開催してもあまり集まらなかったのを聞いて、社会的問題になっていることなのに広まらない難しさを感じた。「ボランティア」を日本人に広めるのは難しい。
- ・地域の方々のために皆さんの協力を求め認知症の予防、対策などを行っていることを知り、私たちも少しでもお役に立てることがないか考えたいと思いました。
- ・認知症サポーター養成講座を介護事業所や薬局、病院職員向けにも開催するとよいと思いました。
- ・歯科医院で、歯科と認知症の関係を伝えることは、説得力があると思いました。
- ・本人、家族のプライバシーに気を配りながら対応する大変さを感じました。
- ・包括支援センターの仕事内容はとても重要であるし大変だとは常々感じています。そんな中で居宅の相談も受けてくれて感謝しています。今回の取り組みは、第三者に相談するハードルがまだ高い方へのアプローチを包括中心に色々取り組まれているんだという事が再認識出来ました。居宅でも何が出来るか考えるきっかけになりました。

【介護事業所関係者】

- ・取り組みに関しては知らないことも多く、見聞を広めて多くの情報を取り入れて活用できるように事業所内にて共有したい。

【保健師】

- ・「若い世代にも伝えること」という点で思いが通じることもあり、いろんな手法を用いて伝えることを考えていきたいと思いました。

【無回答】

- ・地域での認知症についての知識をいかにして広めるか、専門職と意見を出し合い、啓蒙活動を行うことで地域住民が安心して暮らせる地域になる。

問 3. グループワークについて（話したかったこと、感想などお書きください）

【歯科医師】

- ・大在圏域で、実際地域の方とどういった取り組みがあるのか、もう少し知りたかった。

【看護師】

- ・先生から認知症は診断につなげるまでも大変という発言もあり、普及啓発の必要性が伝わったのはよかったと思います

【薬剤師】

- ・認知症サポーターについて詳しく知らなかったため勉強になった。その存在について、もっと知らせていけたらと思います。
- ・異なる立場からの意見を伺うことができ、参考になりました。
- ・大在地域は小学校が増えて3校になる。小学生、中学生、PTAを対象に認知症サポーター養成講座を開催すると、登下校時間や買い物などでもサポーターが各所で見守ってくれることになり心強いと思う。【保健師】

【介護支援専門員】

- ・様々な職種の見点からの意見を聞く良い機会でした
- ・薬局の待ち時間を利用する、というのは参考になりました。何か考えて活用できれば、と思います。
- ・グループワークで色々話が聞けてよかった。
- ・それぞれの立場で、予防の取り組みをしていることがわかり、良かった。もう少し時間をとって話ができれば良かったと感じた。
- ・初めての参加で流れを把握するができず、来年は積極的に参加していきたいと思う。グループワークにおいては、考えさせられる他の方の意見も多く、多くの観点から認知症に関しての意見を出すことは有意義なディスカッションだったと思います。

【介護事業所関係者】

- ・予防などの普及活動は皆さんがあまり考えたことがないので難しかった

【保健師】

- ・他の業種の方の見点がわかり、良かったです。

問 4. 今後の検討会について（このような検討会（内容）にしたい、こんなテーマが良いなどのご希望）

【医師】

- ・老老介護について

【看護師】

- ・独居の高齢者が多くなってきている印象が強い。サービスを受け入れなく困難事例も多いのでみんなと検討していきたいと感じている。
- ・希望はないが、地域で困っていることを検討会で話し合えればと思う。

【介護支援専門員】

- ・医療連携（多職種）、ITの活用について
- ・脳血管実感、心疾患、誤嚥性肺炎など
- ・(児童)民生委員や区長など地域の方も含めて、認知症の方やそのご家族に対して地域で取り組んでいる事や地域資源の紹介などの場を設ける

- ・認知症の方が立ち寄るスーパーや銀行、コンビニなど職員や、認知症の方に対応する機会が多いグループホーム、小多機、医療デイケアの職員などが一緒に話をする機会があれば良いと思います
- 【介護事業所関係者】
- ・現状、大在地区の課題等について把握をしていない状況のため、包括支援センターの方々を中心にテーマの設定をしていたら、課題把握の為に助かります。
- 【保健師】
- ・去年に継続して課題が設定されていて話しやすかったです。この会をきっかけに取り組んだことなどを報告できる機会があってもいいのかなと思います。認知症カフェについて、どうなったかなども知りたいです。

問5. 多職種連携で良かったこと、困っていることなど教えてください。(多職種に対しての要望や困りごとなど)

- 【歯科医師】
- ・多職種の方々が介護者の口腔内について、どのようなことでお困りかを即答はしませんが、一度聞いてみたいと思っている。
- 【看護師】
- ・私たち看護師は何かあれば、先生やケアマネ、薬剤師などにすぐ連絡をとっているため特に困っていることは感じていません
- 【薬剤師】
- ・患者の入退院情報が医療機関から薬局に流れてこないため、入退院情報がわかれば薬局にも連絡いただくと助かる。
- ・いろいろお話を聞いてみたいと思いますが、なかなか他職種の方と関わる機会がありません。
- 【介護支援専門員】
- ・今回は他職種の方とのグループワークを行えたことで、いろいろな意見や考えを聞くことができ大変勉強になりました。
- ・医療ソーシャルワーカーやリハビリ職の参加かもっと多くあると連携しやすくなると思います。
- ・医療関係者の話を聞くことができ良かったです。できれば認知症専門医がいらっやればどんな社会資源が必要か聞くことができましたのではないかと思います。
- ・コロナ禍で以前より直接会って話をする機会が減っているので、早く収束して欲しいです。
- 【介護事業所関係者】
- ・多職種による意見交換において、多くの意見を聞かせていただいたのは参考になりました。以前から少し思っていることとして、地域の在宅の方を中心とした訪問介護事業所の横の連携が図れる取り組みがあればと感じています。
- 【保健師】
- ・事業を通じて連携させていただいていることが多くありますので、今後も引き続きよろしくをお願いします。(また必要時にご相談させていただくこともあると思います)
- 【職種無回答】
- ・医師、歯科医師等の専門的な目線により勉強になった。

問6. その他、ご意見や感想

- 【歯科医師】
- ・先日、東陽圏域の交流会・勉強会に参加しましたが、大在圏域・大分東歯科医師会でも、東陽圏域のように歯科医師が積極的に関わっていかねばならないと考えています。歯科医師側が医院外での診療・活動に消極的な理由はいくつかありますが、一番は、どのような依頼・質問が、どのようなタイミングで来るか分からないことです。また、訪問診療を依頼する側も、どのようなことがお願いできるのか、どこにお願いすればいいのかが分かりづらいと考えます。質問5にも書きましたが、お互いの状況を整理し、理解することで、少しずつ連携の輪を広げられたら良いなと思っています。
- 【看護師】
- ・本日最後の司会進行をしてくださっているかたの声が聞き取りにくかったです。私たちだけかもしれませんが…。
- 【薬剤師】
- ・フォローアップ講座が有るのは知りませんでした。認知症サポーターになったのはかなり昔なので参加してみたいです。
- 【介護支援専門員】
- ・別府市の取り組みで認知症、徘徊のある利用者で登録するとバーコードのようなものがついたシールが配布され、靴やカバン、上着にシールを貼っておくことで、なくなった際にそのデータに基づき検索できると聞いて大分市にも欲しいと思いました。
- ・介護の難しさはいつも感じています。時々嫌になる事もあります。でも、先生が「諦めたら終わり、とにかく諦めない」と言われていました。本当にそうだなあと思いました。1人では何の力にもなれないけど、他職種の皆様で知恵を出し合い協力することが大切だと思いました。
- ・いつも研修の計画、実施ありがとうございます。今後、受講証明書など発行してくれるとありがたいです。
- 【介護事業所関係者】
- ・今回の認知症に関する検討会にて、大在地区では認知症カフェがないことをしりました。現在、当事業所が以前カフェをしていたこともあり、当事業所の家主及び職員の方も休日にカフェをしたいという声が上がっていました。それを見据えて、訪問介護の事業所申請にあたり、長寿福祉課には介護事業の事業所営業時間外であれば、営業しても良いと回答を得ています。飛躍した話にはなりますが、話を伺いながら、その様な使い道もあるのかと勝手ながら考えておりました。
- 【保健師】
- ・短い時間でしたが、いろんなことを知る機会となりました。ありがとうございます。集まっている機関で共有してPRできるものを作って配布や放送などの取り組みを9月のアルツハイマー月間などを活用してできるといいかも知れないですね。

6 グループワーク協議

「認知症予防について私たちにできること～地域住民の理解を得るために～」

テーマ ①地域で認知症の予防や理解を得るための普及啓発を進めるには誰がどういった方々を対象に何を
行なうと良いと思いますか？

②それぞれの立場でどういった方法で地域住民への普及啓発に向けた関わりができそうですか？

1 グループ

テーマ ①地域で認知症の予防や理解を得るための普及啓発を進めるには誰がどういった方々を対象に何を
行なうと良いと思いますか？

介護支援専門員

- ・小学校でキャラバンメイトの資格を持っている先生が子供たちに対して、祖父母世代のこと、認知症について教える。
- ・認知症の高齢者と交流を持って活動をすることで、認知症でも普通に生活できることを子供たちに理解してもらう。交流活動みたいなことを行う。

司会

- ・認知症の高齢者も含んだ高齢者と小学生の交流を持つということですね

長寿福祉課

- ・認知症については地域での支えあいが必要だと思しますので、認知症サポート養成講座を地域の企業や学校で行って、認知症についての理解を深めていただく。
- ・学生は3年で卒業してしまうので、教員を対象としてもいいかもしれない。

司会

- ・行うのはキャラバンメイトになりますか？

長寿福祉課

- ・はい

看護師

- ・看護師自身が講話などの情報をしっかりと認識し、家族がいらっしゃれば訪問時に「こういうことをしているよ」と広めていくことが必要だと思います。
- ・訪問対象者や私たちが知っているご近所の方には勧められるかと思う。地域住民の方としては自治会や子供会などに私たちが参加したときに、講座の話をするなどして認知症予防の理解が深められる対応ができればと思います。

包括

- ・マクロな視点から、厚生労働省や国が国民に対して認知症啓発のCMをうつのはどうかと思いました。

司会

- ・CMといっても現在はいろいろな方法がある。テレビCMでしょうか？

包括

- ・そうですね、実現可能かどうかはさておき、民生委員のCMも最近放送されているので、認知症も重要なことだと思いますのでCMやパンフレットの配布などで理解の進む広報活動をしていただけたらと思いました。

看護師

- ・自治体に回覧板で認知症サポーター養成講座があることをまわしてもらえると、回覧板はみんなが見るので良いのではないかと思います。

司会

- ・認知症サポーター養成講座を8/19日に開催することを、大在地区762世帯に回覧しました。コロナの第7波も影響していると思うが、参加者が8名だった。それも直接お誘いをした方になります。
- ・認知症サポーター養成講座は1か月以上前に計画書を提出しなければならない。先のことが分からない状況で計画書を提出して開催するので、計画時と実際に開催する時期では状況が変わっている。
- ・開催案内は回覧と公民館にチラシを置いたりなどでお知らせしている。

看護師

- ・自分の家族や身近な方困っていれば視界に入りやすい。しかし、「そうなる前に知ってほしい」というところですね。

司会

- ・キャラバンメイトが開催する際にサービス事業所に開催案内チラシを持って行くということが大事なのでしょうか。サービス事業所の方が関わっている地域の方や、利用者のご家族にチラシを配布してスケジュールが合えば参加できるよ、という話になりますか？

看護師

- ・それもあると思います。回覧板も見ただけの時間があるのかもわからない、一通り流すように確認して印鑑を押される方もいる。情報をいただければ訪問時にチラシを配布するお手伝いもできると思います。

司会

- ・開催案内チラシは、自治委員の方が個人宅に配布しています。他には公民館に置いたり、沢山の方に話していただける方にお渡ししています。サービス事業所の方もお話していただける方に入っただけということですね。

司会

- ・大在にはオレンジカフェがない。地域の有志の方で、家族や地域住民に声をかけながらオレンジカフェができるといいと思っています。

テーマ ②それぞれの立場でどういった方法で地域住民への普及啓発に向けた関わりができそうですか？

看護師

- ・訪問家族や必要だと思われる方に、勉強会や話ができる場所があるという情報提供、発信していくことが私たちの役割だと思うので、できればと思います。

介護支援専門員

- ・訪問時に利用者ご夫婦のどちらかが認知症ではないかと思うことがある。診断を受けていない、薬も飲んでいない場合に、服薬で状態が落ち着くのであれば、受診を勧める。それに対応した生活を送れるようにする。

長寿福祉課

- ・行政としては、認知症予防・認知症サポーター養成講座・フォローアップ講座について大分市のホームページや市報に掲載して多くの市民の方に知っていただくことができますが、問題となるのが若い世代の方がそれを見るのかということ。私自身も行政職に就かなければ市報やホームページは見なかったと思います。若い方に知ってもらうためにどうしたらいいのかと考えると Twitter や Instagram などの SNS などだと思います。SNS には沢山の機能があり、良い面と悪い面があります。掲示板機能に第三者が書き込んで炎上してしまうと收拾がつかなくなってしまいます。運用としては難しい面もありますが、SNS も 1 つの手段かと思っています。

包括

- ・包括もケアマネとしての側面があり、望ましい対応の仕方をお話しすることはできると思います。
- ・大在には素晴らしい劇団があり、オリジナルで認知症のシナリオなどを作って公演しているいい劇団があります。包括が老人大学や市民の集まる場所で劇団を調整して公演する。

介護支援専門員

- ・興味をそそるようなアイデア、楽しく皆さんに伝わるイベント。劇団はどのような劇団ですか？

包括

- ・市民の方がされているアマチュアの劇団ですが、衣装を作られて素晴らしいです。

司会

- ・平成 28 年か 29 年に大在認知症フォーラムを開催したことがあり、のりのり劇団に公演をしてもらい大好評でした。その劇団も高齢化が問題化してしまっていて、どこも高齢化が問題となっています。当時で高齢の方がされていたので、現在の状況が分からないですが、
- ・コロナ化で活動が縮小しているのは間違いないですが、そう言っているのは普及啓発ができないので頑張っていけないといけない。地域の皆さんの支えになれるのか。

看護師

- ・今の環境では、講座を開催しても行きたくても怖くて行けない方も多と思います。高齢者には参加が難しいかもしれませんが、Zoom で講座を開くことはできますか？

司会

- ・できるようになりました。若い方にはいいと思いますが、民生委員の協議会に zoom 開催の提案をしても zoom が分からなかったり、パソコンにカメラ機能がなかったり、パソコンを持っていなかったりされている方に教えていくのは難しい。
- ・今年は大在地域で開催しませんが、認知症の家族の支援プログラムという 4 回の教室があります。グループホームの職員の方が開催されたさいも、誰に周知していいのかわからないということもありますが開催周知が行き渡らない。そういうときも訪看さんに声をかけさせていただきたいと思います。

2 グループ

テーマ ①地域で認知症の予防や理解を得るための普及啓発を進めるには誰がどういった方々を対象に何を行なうと良いと思いますか？

医師

- ・先ほどの 90 歳の症例、年齢的には昭和ひと桁で家長制度バリバリで戦争を生き残った世代の方、その方が白と言えば黒いものも白と言う状況で長男は怯えている。家長である父親に長男は絶対に逆らえないそのような雰囲気ではないかと思っています。私の父も激しい人だったので当たり前の風景になっていて、病気によるものなのか気づきにくいのではないかと思います。病気によるものなのか、その方の環境、戦前の教育などによる影響なのか線引きが難しいと思います。認知症によるものなのか、性格、環境によるものなのか認知症サポーター養成講座などを録画して YouTube などでもみんなが視聴できるようにする。
- その環境が自宅にない方には、大分市が iPad などを 1 日貸し出して視聴方法を教えて視聴してもらい認知症を理

解する教育ができるといいのではないかと思います。

- ・教育による掘り起こし。認知症だからと諦めて慣れるのではなく、認知症についてみんなが勉強して、状況を見直すことが必要だと感じました。

医療ソーシャルワーカー

- ・認知症の方の 子供世代、50代や60代の方に働きかけていくこと、知っていただくことが大事だと思います。休みの日に集まって特別な講習を自発的に受けるのは、この世代の方には難しいと思います。日常生活の中で目に触れるような形で案内をすることが大事だと思います。
- ・私の祖父は大分市外に住んでいますが、94歳で車の運転をしています。居宅さんに関わっていただきながら家族でも話をしています。80代後半から90代の方の車の運転に関して支援も大事ですが、子供世代のご家族が理解して働きかけていくことが大事だと退院支援に関わる中でも感じます。
- ・端末で見られるようにしたり、チラシなど特別なものではなくても日常生活中で目に触れる形で案内していくのが有効ではないかと思います。

生活相談員

- ・90代の方は頑固な方が多く息子さんや娘さんから話すことが難しいのであれば、お孫さんから話してもらおう。お孫さんの話であれば聞いてもらえるという意見も聞くので、お孫さん世代が話せるようになるといいのではないかと思います。

歯科医師

- ・待合室での待ち時間は暇なことが多い。スライドショーを流していると見ている方もいるので受付にチラシを置く、きっかけになるものを渡す、スライドを見てもらうなどのアプローチはできるかと思う。歯科医師会の歯科医師院全てに置いたりでき出来れば、きっかけになるのかと思います。

司会

- ・歯科医師会の取り組みとして、チラシや掲示で伝えられたらということですね。

看護師

- ・YouTubeの活用は画期的だなと思いました。お孫さん世代への普及も必要だと思います。
- ・認知症で困っている家族に市報の掲載情報をお知らせしても、「それは認知症についての一般的なことでしょ」家族が知りたいのは、その家族にとっての対応など個別な内容だと感じます。訪問時にご本人の様子をご家族が細かく話してくださいるので対応についてお話している。

テーマ ②それぞれの立場でどういった方法で地域住民への普及啓発に向けた関わりができそうですか？

介護支援専門員

- ・認知症の方でサービスなどを受け入れてくださらない方の場合、主治医の先生にお願いして先生から説得していただくとスムーズにサービスにつながります。

司会

- ・ご利用者さんに対してでしょうか。

生活相談員

- ・月に1回、施設通信の作成やチラシを本人・家族に配布している。営業で包括や事業所を訪問した際にファイルに閉じて相談者に紹介していただけるような配布物を作っています。

司会

- ・認知症についての話題について、かわりについて

生活相談員

- ・定期的な担当者会議に参加した際に、最近の催しなどをご家族に直接お話ししたり、医療機関の受診が必要があれば繋げられるような助言などをしています。

医療ソーシャルワーカー

- ・認知症の診断のない方でも、入院中に認知症の初期症状が見られたりする。入院時のアセスメントでよくよくお話を聞くと、入院前から症状があり進行した方はとても多い。退院時の家族指導で認知症のことをお伝えし介護申請される方も多い。そこまで必要なく退院される方も多い。高次機能障害の方には今後の相談先や症状が見られたらなどの家族指導をしているので、認知症を知っていただくという意味で案内を一緒にお渡しすることも1つの方法かと思います。
- ・高次機能障害の方向けの掲示物はたくさんありますが、認知症に対しての掲示物はほとんどないと思う。家族が病院内に入れない状況ですが、待合室や検査で来院された方の目につくところに掲示するのも1つの方法だと思います。

医師

- ・地域住民への周知も大切ですが、関係者それぞれに経験や苦勞をしているので、その情報のやり取りでレベルアップができるのではないかと思います。地域包括支援センターや大分市在宅医療・介護連携支援センターに情報を随時あげてみんなが閲覧や、プリントアウトなどで情報共有して利用者に活かせるといいのではないかと思います。

3 グループ

テーマ ①地域で認知症の予防や理解を得るための普及啓発を進めるには誰がどういった方々を対象に何を
行なうと良いと思いますか？

看護師

・前の施設で認知症看護認定看護師や認知症ケア研修を受けた看護師が出前講座という形で地域の方に認知症
についての講義などをしていた。

介護支援専門員

・今日の研修に向けうちの職員について聞き取りをしたところ、なかなか学校で学生に認知症のことを教える機会がない
と思うので、学校とかでそういう研修が開ければ若いうちから認知症について学べるのではないかという話が出た。「誰が」
については、行政が入ってくるとよいと思う。

看護師

・大きな病院がよく健康フェアなどをやっている。そういうものも活用して地域とか来場者に啓発活動ができると思う。

医師

・アイデアはなかなかないが、医療機関なので、ある程度周りの方には患者を含めて理解のある方が多いと思うが、先ほ
どの話のように、自分の子供に対しても親が祖父や祖母の認知症のことをちゃんと教えてあげないと怖がったりすること
あると思うので、学校で学生に教えるというのは非常によいと思う。

薬剤師

・以前いた薬局では健康フェアみたいなことを何度かしていたので、薬局主催でそういうこともできるとよいと思う。

保健師（地域包括支援センター）

・7月に包括に入ったばかりだが、先日キャラバンメイトの研修を受けて、その時に参加していた高校生に認知症につい
てどのくらいの理解なのか聞いてみたら、物忘れがあるくらいで、認知症の知識を得る場がないと言っていた。学生とかが
通学路で徘徊している高齢者に遭遇することがあるかも知れないので、学生に向けてやるのがよいと思うし、早期から
そういう知識を学ぶことで医療の道に進みたいと思って医療従事者が育っていくのかなと研修の中でも話題になった。

司会

ありがとうございます。やはり認知症のことを学ぶのに小さいお子さんから一般の高齢者の方まで幅広く学ぶ場があるとよいと
思う。地域の方はいろいろ見ている市報などもじっくり読んでいます。広報活動、認知症サポーター養成講座は、コロナ禍も
あって、なかなか来てくれる方は少なかったが、市報とかケーブルテレビとかメディアも利用して発信していくとよいと思う。民生
委員や地区の方、老人クラブの方とかに、「認知症ケアパス」という冊子があることを伝えたら、包括に取りに来られた。興
味はあるが、どこに行ったらよいか分からないということもあるので、包括としても、そういった発信も必要だと思った。

テーマ ②それぞれの立場でどういった方法で地域住民への普及啓発に向けた関わりができそうですか？

司会

・包括が、色んな職種の方、自治委員、地区の方に呼びかけて「地域ネットワーク会議」という会議を毎年開いている。
最近ではコロナ禍で、なかなか皆さんに集まっていただくことが難しいが、そうした会議等で認知症予防の話をしたり、「介
護予防教室」や「認知症の家族の会」という集いが定期的に行われており、包括の持ち回りで参加している。そこで色
んな情報を共有しながら普及啓発ができるかも知れないと考えている。他にご意見を伺いたい。

介護支援専門員

・介護支援事業所としてケアマネジャーが在籍する事業所で働いている。ケアマネジャーの仕事としては、介護の認定
を受けた方が介護サービスを利用しているときに、自宅に伺ったりするが、軽い認知症の方をみている家族に対して、認
知症が進んでいくと、こういった行動や症状が出たりする可能性がある、あらかじめ予測を伝えることで、症状が進んだ
ときに家族が理解しやすい、受け入れやすい体制づくりを心掛けている。悪くなってから家族も知らない行動をされると
慌てたり不安になったりするので早めにそういった情報を伝えるのが大切だと思う。

医師

・仕事上、診察に来る患者が急に薬を飲まなくなるとか今までできていたことができなくなったと言われることがあり、その
時は、家族に相談して、こういったことがある、認知症があるということ伝え、対策を練ってもらうのが仕事上できること
だと思う。早めに気づいてもらうこと。

司会

・一緒に住んでいる家族もなかなか気づかないということがあるのか。

医師

・子供と別に住んでいるので、気付いていないということもあると思う。

看護師

・訪問看護をはじめ6か月になるが、地域住民の方というより利用者や家族に気になることがあるかどうかを聞くように
している。もし気になることがあれば、主治医やキーパーソンになる家族に報告している。利用者の中には精神科とかに
抵抗がある方がいるので、物忘れ外来という名前で外来をしているところの紹介を今後していけると思う。

薬剤師

・啓発のポスターやパンフレットを分けていただければ薬局内に配ったりできると思う。なかなかこちらで作ることはできない

が、あるものを分けていただければすぐにでも使わせていただきたい。

保健師

- ・コロナ禍前は、公民館とか色んな教室に行かせてもらい、色んな対象の方に啓発活動や認知症予防の体操とかもできていたが、コロナ禍になって、そうした教室開催などが少し難しくなった。

理学療法士

- ・当院は認知症の方はなかなか来られないが、軽度の方や認知症が疑われる方に関しては、一緒に来た家族には、こういうことがあったと伝えている。家ででの生活状況が聞き出せない場合は家族に声掛けをして確認をしている。

司会

- ・色んなご意見ありがとうございました。それぞれの立場から色んなアプローチがあると思う。早期発見という部分は、なかなか離れた家族が気づきにくいとか、たまたま年末年始に帰ってきて様子が全然違っているとか、コロナ禍で県外からなかなか頻りに帰省ができなくなって、かなり久しぶりに会ったら様子が違って、慌てて要介護認定の申請とかで相談があることがある。日頃から家族と本人のコミュニケーションの部分、どんなふうにして状況を確認していくとか、元気なときから本人と家族の話し合いができてるとよいので、私たちも関わる中で電話してみたらどうですかとか、コミュニケーションの手伝いできればよいと思う。また、定期的に県外の息子さんから電話が掛かって来て物忘れがないかチェックされると言う方もいたが、そういった形で定期的なやり取りや、本人、家族だけではなく、包括職員とかが事前に家族ともコミュニケーションを取っておくことも必要と思った。いきなり本人の状況が変わって、突然包括から電話があってもびっくりすると思うので、本人が元気なうちからやり取りをするのがよいと思う。自分の支援を振り返るよい機会となった。
- ・コロナ禍で交流ややり取りが制限されているが、コロナ禍と付き合いながら、できることができたらいと思うので今後ともご協力をお願いします。

4 グループ

テーマ ①地域で認知症の予防や理解を得るための普及啓発を進めるには誰がどういった方々を対象に何を行なうと良いと思いますか？

薬剤師

- ・地区役員の会議にて、福祉事業所からその地区に関して24時間福祉や介護に関する対応、日常的にその地区の見回りを行ったり、生活の困りごとや薬の服用の確認をしていきますと連絡があったと知人から聞いた。地域住民、役員の方に直接連絡が入ることが素晴らしいと思いました。

司会

- ・福祉事業所が地域住民を対象に24時間見守りや困りごとの対応をする、その事業所は大在圏域ですか？

薬剤師

- ・大在圏域に近いです。

保健師

- ・キャラバンメイトが小中学生にも認知症サポーター養成講座で普及啓発を行い、知識を深めてもらう。
- ・健康教室の依頼を受けることがあるので、キャラバンメイトと連携して認知症の講話等で普及啓発できればと思う。

司会

- ・大在には12名のキャラバンメイトがいますので、連携しながら活用できればと思います。

歯科医師

- ・啓蒙という意味ではテレビを活用するがよいと思う。普通のテレビではお金がかかるのでケーブルテレビを活用する。早くたくさんの方に知ってもらえると思います。

司会

- ・認知症推進委員が大分市にはおり、大分市内の認知症と対策などをテレビニュースの中で特集で話していました。そういうものが増えるといいと思います。

ホームヘルパー

- ・各家庭に支援に入りますが、認知症についての理解がない家族が多いと感じます。ケアマネとも家族が認知症を理解されていないと話しています。家族の理解を深めていただくために、パンフレットを持って行き、このような症状があった場合には初期症状の可能性があります、現状を把握しながら様子を見ていきましょうと話しています。家族の理解を深めながら支援をしていますが、認知症の方の対応なので予防という面では勉強をさせていただきたいと思っています。

司会

- ・認知症の症状がある方だけでなく、介護サービスを利用している過程で症状が出始める方もいる。そのような方の場合は介護サービス事業所の方が家族への情報の提供や、早急な治療、相談に繋げるという意見が出ました。

介護支援専門員

- ・歯科医師の意見が斬新で何かないかなと考えていた。自分も子供がいるが、不審者がいた時に見守りネットワークなどで保護者を対象に不審者が出ましたと連絡が入ります。まずは、現在あるツールを活用する。あんしんネットワークに不

審者以外に行方不明者の情報を載せる。そのことをきっかけに認知症について家族で話し合ってもらおうきっかけになればいいのではないかと思います。

包括

・小学校入学前に講座を受けないといけない、アンガーマネジメントなどを受けていたが、認知症をテーマにすることもあいなのかなと思いました。学校行事の中で認知症に対しての理解を小学生や保護者にしてもらうことで、保護者の親世代が認知症になる世代だと思うので、認知症を知ってもらう1つの場だと思います。

司会

・大在は小学校が1つ増えるので、小学生とその親世代が多い地区だと思いますので、PTA活動や講演会で認知症のことや認知症サポーター養成講座ができると、地域で徘徊している方を認知症の方かな、見守ろうかなという風土になると心強いです。

介護支援専門員

・自分の子供に、変な裸の人が歩いていたらどうする？と聞いたときに「黙って逃げろ」と習っているらしく、関わらない雰囲気になっている。認知症の方も道に迷っていて声をかけていても不審者に間違えられるケースもあるのではないかと思います。かといって子供に声をかけるようにとは言えないので何か必要だと思う。

司会

・見守りのネットワークとして、「まもめーる」というものがある。認知症だけではなく、その他の情報もありますが、県内の情報が入ってきます。
・佐伯では地域住民を対象とした徘徊老人の見守り訓練をしている地域がある。徘徊老人役の方がおり、服装や背格好などの情報で行方不明の方を探すのを協力してもらえませんか？という訓練をしています。同じような背格好の方が数名まぎれて歩いているので、別の地区の方が探しに来てくれるという訓練を小学校区単位で何件か行っている、これも実践的でいいかもしれません。

歯科医師

・その訓練の知らせ方はどのようにしているのでしょうか？

司会

・佐伯市役所が中学校区単位で行っており、区長が住民にお知らせしています。田舎の小さい範囲で行ったりして試しています。市街地の場合は範囲が広すぎて見つかりにくかったそうです。

歯科医師

・回覧板などですか？

司会

・回覧板や地区の総会で知らせているようです。

保健師

・コロナ禍前は避難訓練などもしてたので、徘徊訓練も方法の一つかと思う。
・子供が徘徊している方に声をかけるのは難しいと思う。子供は何かあった時に駆け込んでいいよ相談していいよという場所が設置されているので、大人に周知していくことで上手く対処していけるのではないかと思います。

テーマ ②それぞれの立場でどういった方法で地域住民への普及啓発に向けた関わりができそうですか？

薬剤師

・認知機能の低下は薬の飲み忘れにつながるので常にアンテナを張っていますが、普及啓発という意味では受動的だと痛感しています。認知症は老化ではなく病気だと知ってもらうことが大事だと思います。薬ができるまで待つことが多いので、壁に認知機能チェックやテストをネットから抜粋してポスターを作成し、患者さんの目につくところに貼っておき患者が自分でチェックできるようにできるのもよいのではないかと思います。

司会

・自分でチェックするだけでなく、付き添われている家族が気にして待っている間にお互いにチェックをしてみて、おかしいかなと思ったら相談先を教えてくださいと相談につながりやすいかもしれませんね。

保健師

・大在健康支援室では紙面を使って認知症についての広報ができると思います。
・健康教育の依頼や、自治活動の中で健康推進員が各自治区に1名はいますので、その方を通して認知症の普及啓発ができると思います。

ヘルパー

・高齢者の自宅に伺うので、家族をメインにチラシの配布などになる。先ほど出ていましたが、チェック項目があり状態が分かるようなものを配布できると普及や発見につながるのではないかと思います。

司会

・大在では認知症の家族支援プログラムがある。認知症の方の介護をされている方を対象にお大分市役所と介護施設が連携して介護教室を行っています。
・大在にはありませんが、介護サービス事業所などが、認知症の方や家族の方がお茶をしながら話をしたりして気分転換や交流をする認知症カフェなども広まっています。大在にもできそうという話しはありますが、まだありませんので皆様の事業所で行っていただけると、ありがたいです。

7 意見交換

グループワーク発表

1G

- ・キャラバンメイトが企業、教員、学生、高齢者を対象に認知症サポート養成講座を受けて、学生と高齢者が交流の場を持ち高齢者との関わりを体験してもらおう。
- ・訪問する事業所が、利用者や家族、近隣の方を対象に認知症サポート養成講座を紹介するなどして普及啓発活動を行う。
- ・市民に認知症サポーター養成講座を回覧板でお知らせする。回覧板では参加につながらなかったため、事業所が家族にお伝えするなどしたほうが参加につながるのではないかと。
- ・国が認知症に関してのパンフレットやCMを活用した広報活動を行う。

2G

- ・認知症サポーター養成講座を録画してYouTubeなどで視聴できるようにし、大分市がiPadなどの貸出しをするなどして環境を整え認知症の教育を行う。
- ・認知症の方の子供世代の方の目に入るようにして働きかける、孫世代から祖父母に助言をしてもらう。若い世代に理解してもらうために、若い世代への普及活動が必要。
- ・病院でスライドショーを流したり、受付にチラシを置くなどしてきっかけ作りをする。

3G

- ・認知症認定看護師等が地域住民に対して出前講座で講義や体操などを実施。
- ・行政の方が学校に訪問して学生に対して認知症の研修を行う。
- ・病院や薬局で健康フェアを開催したときに、来場者に対して認知症の研修や相談を行う。
- ・市報やメディアを利用して市民に対して広報活動する。

4G

テーマ①

- ・24時間体制を整え地域の困りごとなどを聞く活動をしている福祉事業所がある、このようなことができるといい。
- ・ケーブルテレビを活用して認知症の特集をしてQ&Aなどを放送する。
- ・誰がというところではキャラバンメイトや行政などあるが、学校行事や「まもめる」などを活用する。
- ・他の自治体では、徘徊訓練を行っている。実際に行うことでイメージができるのではないかと。
- ・避難訓練の際に認知症のことを知ってもらう時間を作る。

テーマ②

- ・薬局での待ち時間に自己チェックリストのポスターを掲示して、本人や家族にチェックしてもらうことをきっかけに広めてもらう。
- ・大在には認知症カフェがないので、できるといい。

意見交換

司会

- ・メディアを活用した方法がどのグループからも出ていました。2Gでは認知症サポート養成講座でピンポイントに集まってもらうのは大変、特に若い世代の方への普及は難しいので認知症サポート養成講座の動画視聴という意見が出ました。他のグループからもCMやケーブルテレビなどの意見が出ていたのが印象的だと思いました。
- ・認知症カフェは大在にできればいいと思いますが、現状はどうなっていますか？

包括

- ・認知症カフェをしたいという声はあがっていますが、商売と介護をされているので気持ちはあるが実現していないのが現状です。1年ぐらいの間にはどうかなるのではないかと考えています。その方は認知症の方に美味しい食事、健康に良い食事をとっていただきたいという希望があり10人ぐらいのカフェにしたいと思っています。認知症カフェをされたいという方に協力をしていきたいと考えておりますので、皆さんにも声掛けなど協力をしていただければと思っています。その時には声をかけますのでよろしくお願いします。

司会

地域包括支援センターだけで考えていると、アイデアも偏ってしまい行き詰っている。参加いただいている方からのアイデアや、どういった協力が得られて一緒に普及啓発を進めていけるかをお聞きしたい。

歯科医師 A

- ・歯の喪失が多いと認知症のリスクが2倍になるというデータがあり、認知症の原因の1つとなっている。国が歯科健診を義務化するという話になっています。歯の喪失を減らすために定期的な受診を全員がして口腔内をきれいにする。それによって認知症も少なくなり、健康寿命が延びるという話になっています。多くの方に歯周病予防、歯の喪失予防を啓発することで、認知症のリスクを下げることに繋がるといって啓発できればと思います。
- ・食事もよく噛むことで脳が刺激される。歯が多く残っているほど、食事によって脳に刺激が伝えられる。歯科では、歯が認知症予防では密接な関係にあるので啓蒙できればと思います。

司会

- ・歯と認知症予防の話は聞きますので、介護からも歯科受診に繋がられるといいと思います。

包括

- ・介護予防教室で口腔機能の低下を防ぐために歯科衛生士が来てくれて行うことがあるが、地域の方に介護予防教室で何をするのか希望を聞くと転倒予防が多く口腔にいづかないことが多い。口腔機能の大切さが地域住民に浸透していないので今後の課題だと思います。

医師 A

- ・診察の中で認知症に気付くこともある、困ったときには家族にお知らせをしている。認知症の診療は行っていませんが家族に気付きを与えることはできると思います。
- ・子供に祖父母のことして、認知症のこを知ってもらうことは大切だと思いました。

歯科医師 B

- ・先ほど歯科医師 A 先生が言われていたことが、歯科医師として一番アプローチできる部分だと思います。
- ・歯科医師院は悪くなってから受診するところであったが、まずは健診に来てもらうようにすること。
- ・専門職の方が口の中のことについて話をする際に、話をする方自身が歯科医院にかかっていることも大事なことでないかと思います。年に 1 回でも受診されていると、他の方に話される際に良い伝え方ができるのではないかと思います。
- ・今回の検討会に 2 つの歯科医師院しか参加していませんが、歯科医師が訪問を行うことがあまりないので歯科医師院側としてアプローチしていかなければならないと思っているので、今後相談ができればと思っています。

薬剤師 A

- ・薬局だと認知症の普及啓発になじみがない。
- ・訪看やケアマネジャーから薬の飲み残しがあるとの連絡を受け複数の医療機関にかかっている方の薬を一包化することで、本人よりも家族が分かりやすくなったと喜んでいる。薬局から認知症についてのアプローチとなると難しい。
- ・他の大きい薬局で認知機能を自分でチェックできるアプリ「のう KNOW」を使って、フェアに来ていただいた方にお試しで使っていただいていると聞いたことはあります。

薬剤師 B

- ・以前勤務していた薬局でフェアを行っていた。現在はコロナの影響で難しいとは思いますが、できるといいと思います。
- ・複数の医療機関を受診されている方の薬を一包化するのは薬剤師からは提案しにくい。ご家族やケアマネジャーから相談をしていただければできるので、そういった啓発もできればと思います。

司会

- ・地域包括支援センターだけで普及啓発を考えるのは難しい。今回グループワークでいただいたご意見を活かしていきたい。また、ご協力いただきながら一緒に取り組んでいただければと思います。
- ・専門職がそれぞれの立ち場でできることに取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

8 講評

医師

- ・医師の立場からすると認知症と診断されてからが大変だと思っていましたが、診断にもっていくまでが大変なんだという目から鱗な話を伺いました。
- ・教育に関しては本人ではなく、いわゆるお濠を埋める周りの方への教育。教育に関してはしようと思ってもできない、できていない。難しく濠を埋められないということを理解しました。
- ・歯科の先生方も取組んでいただこうとされています。これからは情報をどのように広めて、たくさんの方にどのように伝えたいことを伝えていくのが課題。
- ・それぞれが苦労してクリアしている認知症対策を、地域包括支援センターや大分市在宅医療・介護連携支援センターで情報共有し関係者に返していただくことが大事なのではないかと思っています。
- ・皆様が日々勉強していることが、大在地域の皆様のお役に立つことを願っております。

9 検討会まとめ

大在地域包括支援センター

- ・認知症になってからの連携も非常に大事ですが、認知症になる前から皆さんで手を取り合って予防や、早期発見することで認知症が進まないなど、皆で手を取り合って草の根活動ができればいいなと思っています。
- ・認知症サポーター養成講座は 5 人以上で開催できます。皆様のご協力で大在地域を支えていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。